

第2節 中学生の学習観・成績観と学力

1. 成績観と学力

①成績の自己評価と学力

成績の自己評価と学力階層の関連はきわめて強い。特に、数学の学力階層は、英語や国語の自己評価ともかなり強く関連している。

Q

- あなたの学校での成績についてうかがいます。
現在の総合的な成績は、学年の中でどのくらいですか。
- 次の教科（数学、国語、英語）の現在の成績は、学年の中でどのくらいですか。

成績の自己評価は、実際の学力をどの程度正確に反映しているのだろうか。表3-2-1は、数学・国語・英語の自己評価との関連を示している。

まず、数学の自己評価と学力階層はきわめて強く関連している。学力上位層の56.8%は、数学の成績が7区分で「1（上のほう）」もしくは「2」と回答しており、「6」「7（下のほう）」はいずれもゼロである。数学の学力階層は、国語や英語の自己評価とも強い関

連を示す。

国語の学力階層に関しては、これらの関連はいずれも弱くなる。とはいえ、やはり国語の学力上位層の半数以上は「1」もしくは「2」と回答している。

数学についても国語についても中学生は自らの学力階層をかなり正確に認識しており、これらは総合的な成績の自己評価にもそのまま投影されている。

表3 - 2 - 1 成績の自己評価（学力階層別）

（％）

		数 学				国 語			
		上位 (169)	中の上位 (297)	中の下位 (284)	下位 (173)	上位 (93)	中の上位 (359)	中の下位 (312)	下位 (117)
総 合 成 績	1（上のほう）	<u>13.6</u>	4.4	0.7	0.6	<u>19.4</u>	5.3	1.6	1.7
	2	<u>36.7</u>	14.1	3.5	0.0	<u>35.5</u>	17.3	4.5	0.9
	3	<u>30.2</u>	26.6	10.2	1.7	19.4	<u>27.9</u>	10.9	3.4
	4（真ん中）	14.8	<u>33.7</u>	30.6	10.4	16.1	<u>25.3</u>	<u>25.3</u>	17.1
	5	1.2	16.8	25.0	<u>28.9</u>	5.4	13.4	25.6	<u>28.2</u>
	6	1.2	2.7	18.3	<u>30.6</u>	2.2	7.5	<u>20.5</u>	19.7
	7（下のほう）	0.6	0.7	10.9	<u>26.6</u>	0.0	2.5	10.3	<u>27.4</u>
数 学	1（上のほう）	<u>26.6</u>	5.7	1.4	0.6	<u>16.1</u>	10.0	3.8	2.6
	2	<u>30.2</u>	13.5	3.9	1.2	<u>26.9</u>	13.4	5.1	2.6
	3	24.3	<u>24.6</u>	10.9	1.2	<u>23.7</u>	20.1	12.2	10.3
	4（真ん中）	12.4	<u>30.0</u>	27.8	11.6	16.1	<u>25.1</u>	24.4	16.2
	5	4.7	20.2	<u>26.4</u>	19.7	11.8	17.5	<u>21.2</u>	16.2
	6	0.0	4.7	19.0	<u>30.1</u>	3.2	8.1	18.9	<u>26.5</u>
	7（下のほう）	0.0	0.7	9.5	<u>33.5</u>	2.2	4.7	12.8	<u>23.9</u>
国 語	1（上のほう）	<u>13.6</u>	3.7	2.1	1.7	<u>18.3</u>	5.3	1.3	1.7
	2	<u>26.6</u>	11.8	6.7	1.7	<u>32.3</u>	17.0	2.9	1.7
	3	26.6	<u>27.6</u>	15.1	2.9	<u>25.8</u>	24.2	16.3	7.7
	4（真ん中）	23.7	<u>37.7</u>	29.9	22.5	16.1	<u>34.0</u>	32.7	16.2
	5	5.9	13.1	25.0	<u>30.1</u>	5.4	11.4	26.6	<u>29.1</u>
	6	1.8	5.1	13.7	<u>24.3</u>	2.2	5.6	14.4	<u>23.9</u>
	7（下のほう）	0.6	0.7	6.7	<u>13.9</u>	0.0	1.7	4.5	<u>17.1</u>
英 語	1（上のほう）	<u>20.1</u>	9.1	2.8	1.2	<u>17.2</u>	10.6	3.5	2.6
	2	<u>31.4</u>	14.5	6.0	4.6	<u>30.1</u>	16.7	7.1	4.3
	3	18.3	<u>19.5</u>	14.4	5.2	18.3	<u>18.4</u>	11.9	6.8
	4（真ん中）	16.6	<u>24.6</u>	20.4	14.5	21.5	20.9	<u>23.4</u>	12.0
	5	7.1	20.2	<u>20.8</u>	17.3	4.3	15.9	<u>20.8</u>	17.1
	6	1.8	9.1	18.7	<u>26.0</u>	6.5	10.0	17.0	<u>31.6</u>
	7（下のほう）	3.0	2.7	15.8	<u>28.9</u>	2.2	6.1	14.7	<u>24.8</u>

注1）下線は最大値。

注2）（ ）内はサンプル数。

②とりたいと思う成績と学力

とりたいと思う成績の水準は、実際の学力階層によってある程度枠づけられている。学力上位層では、「1（上のほう）」と「2」が合わせておよそ9割を占めるが、下位層では3割程度である。



あなたはどのくらいの成績がとれたらいいと思いますか。

それでは、「とりたい成績」は、学力階層とどのようにかかわっているのだろうか。

やはり、希望の成績水準も明らかに現在の学力の影響を受けている(図3 - 2 - 1①②)。

たとえば、国語の学力上位層の場合、およそ9割が「1」もしくは「2」と回答しているのに対して、下位層では3割程度にとどまっている。数学でも同様な傾向がみられる。

図3 - 2 - 1 とりたいと思う成績（数学の学力階層別）

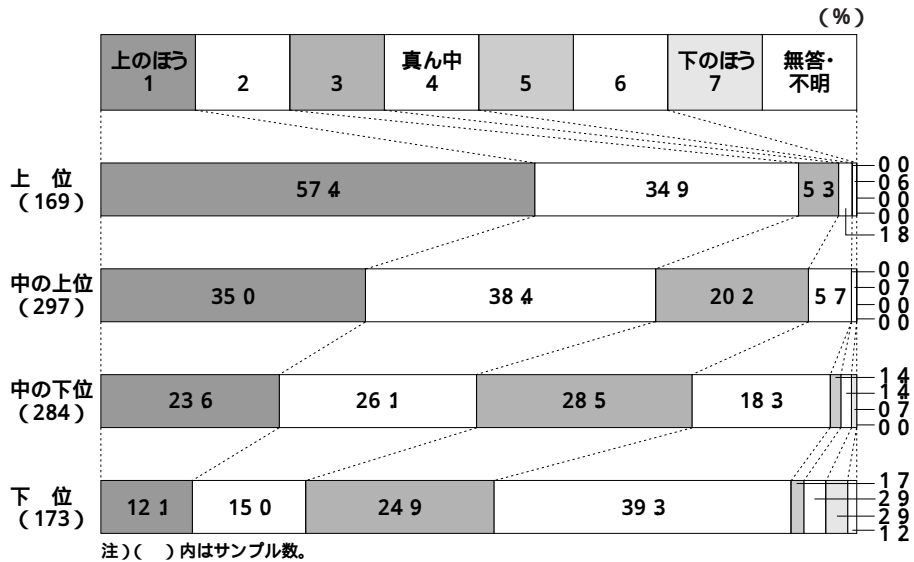
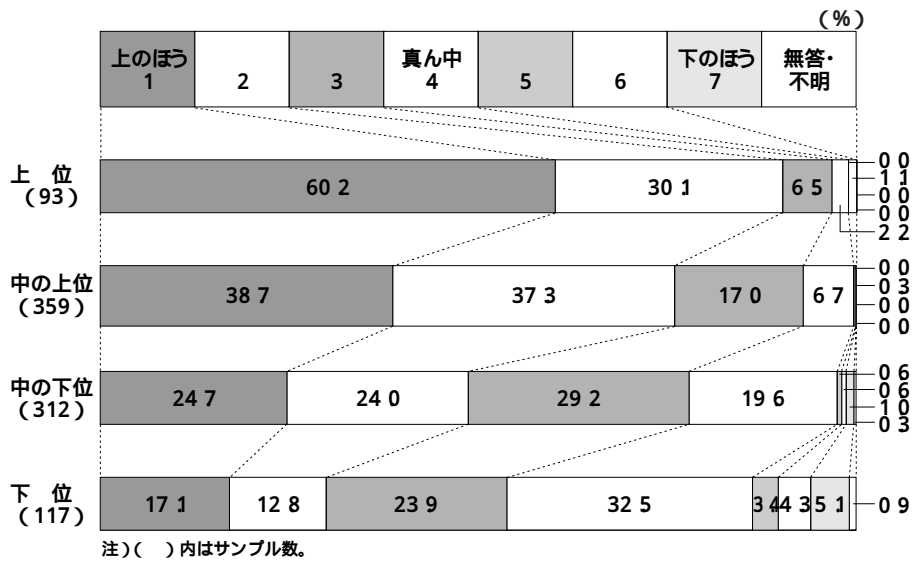


図3 - 2 - 1 とりたいと思う成績（国語の学力階層別）



③がんばればとれると思う成績と学力

「がんばればとれると思う成績」もまた、学力階層と強い関連を示している。学力上位層では、「1（上のほう）」と「2」が合わせて8割台であるが、下位層では1～2割程度にとどまる。



現在の成績は別として、あなたがうんとがんばれば、どのくらいの成績がとれると思いますか。

「（現在の成績は別として）がんばればとれる成績」は、学力階層とどの程度関連しているのだろうか（図3-2-2①②）。

端的に言って、前項の「とれたらいい成績」よりも学力階層によって強く規定されていることがわかる。特に、数学の場合には、実際

の学力階層によって自己概念が枠づけられる度合いが強い。数学の学力上位層の86.4%が「1（上のほう）」「2」と回答しているのに対して、下位層の場合にはわずかに13.9%にとどまっている。国語の場合には、両者の開きはいくらか縮まっている。

図3-2-2 がんばればとれると思う成績（数学の学力階層別）

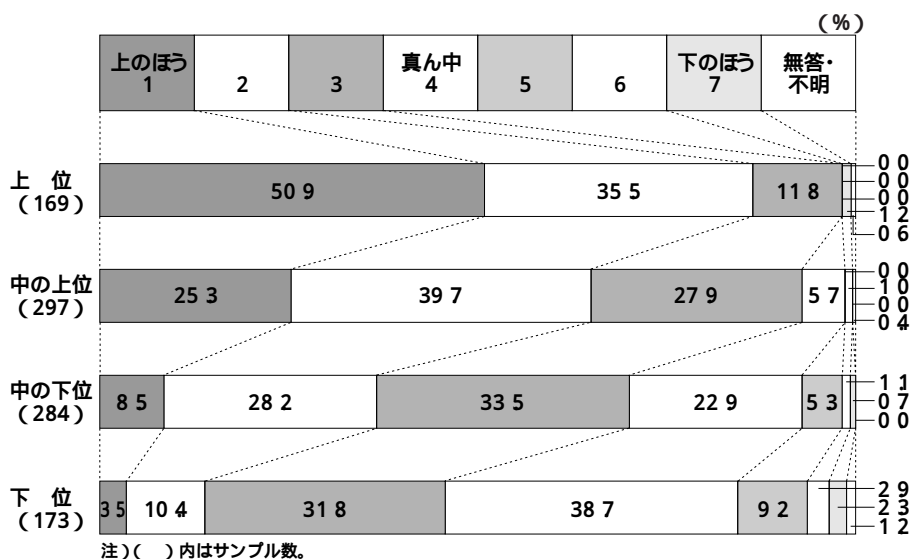
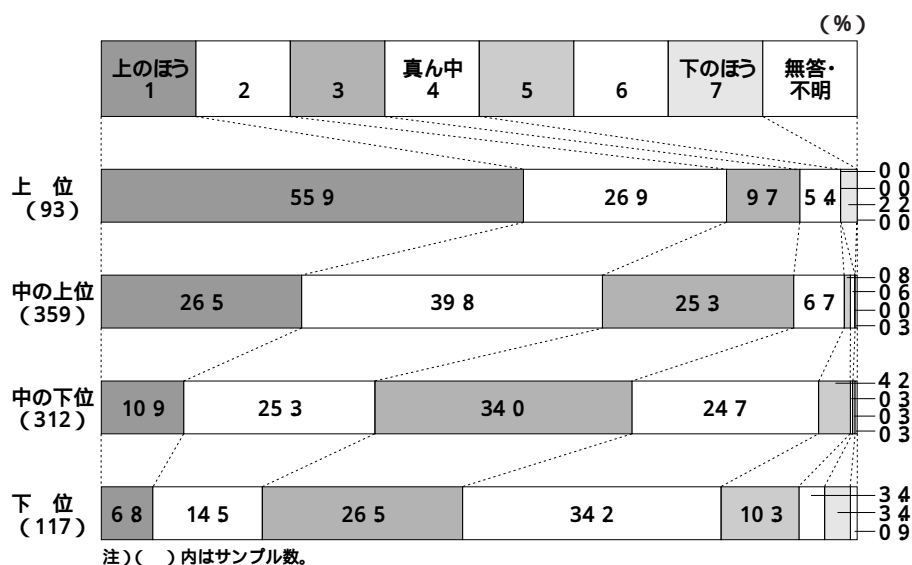


図3-2-2 がんばればとれると思う成績（国語の学力階層別）



④成績観・学力観と学力

成績観・学力観は、学力階層によって大きく変わってくる。学力下位層ほど、ほどほどの進路でよしとする傾向が強く、上位層ほど「できるだけいい高校や大学」を志向する。



あなたは、次のように思うことがありますか。

ここでは、成績観・学力観に関して6つの項目を立てて、学力階層との関連をみた（表3-2-2）。

データによると、学力階層によって成績観・学力観が大きく異なっていることがわかる。学力が低くなるにつれて、「将来ふつうに生活するのに困らないくらいの学力があればいい」

ばいい」「今は勉強することが一番大切なことだ」「学校生活が楽しければ、成績にはこだわらない」「どこかの高校や大学・短期大学に入れる学力があればいい」という回答が多くなる。逆に、「できるだけいい高校や大学に入れるよう、成績を上げたい」という意識は学力上位層ほど強まる。

表3-2-2 成績観・学力観（学力階層別）

（％）

	数 学				国 語			
	上位 (169)	中の上位 (297)	中の下位 (284)	下位 (173)	上位 (93)	中の上位 (359)	中の下位 (312)	下位 (117)
将来ふつうに生活するのに困らないくらいの学力があればいい	47.9	63.3	69.7	70.5	47.3	61.0	69.9	69.2
できるだけいい高校や大学に入れるよう、成績を上げたい	63.3	58.6	53.9	50.3	61.3	57.7	54.2	53.0
どこかの高校や大学・短期大学に入れる学力があればいい	39.6	46.8	52.1	48.0	43.0	47.4	48.4	52.1
学校生活が楽しければ、成績にはこだわらない	23.1	27.9	35.2	35.8	26.9	30.6	30.8	41.0
今は勉強することが一番大切なことだ	13.0	23.9	27.1	33.5	22.6	18.7	27.6	34.2
そんなに勉強しなくても、なんとか進学できるだろう	18.9	14.1	20.1	18.5	16.1	17.0	18.3	22.2

注1）複数回答。

注2）下線は10%以上差があるもの（最大値と最小値）。

注3）（ ）内はサンプル数。

⑤ よい成績に大切だと思うことと学力

学力上位層では、よい成績をとるために大切な条件として「運」をあげる者が比較的多い。単一回答では、学力下位層で「上手な勉強法」をあげる割合が小さくなる点が目を引く。



よい成績をとるためには、次のことはどれくらい大切だと思いますか。

次に、「よい成績をとるために大切なこと」と学力階層との関連を眺めてみる（表3 - 2 - 3）。

同表は、「とても大切」と「まあ大切」と回答した割合を学力階層の「上位」～「下位」層ごとに示している。学力上位層で一貫して多いのは、「運」である。数学と国語いずれについても学力上位層と下位層の間に20ポイント程度の開きがみられる。「教え方の上手

な先生」をあげる者も学力上位層で多い。国語については、「人に負けたくないという気持ち」も学力上位層ほど多くなっている。

10項目中でもっとも大切だと思うもの1つを答えてもらう単一回答では、全般的に「努力」をあげる割合が多い。特に国語の学力上位層で顕著である。さらに、学力下位層で「上手な勉強法」をあげる割合が上位層に比べ半減している点が目を引く。

表3 - 2 - 3 よい成績に大切だと思うこと（学力階層別）

(%)

	数 学				国 語			
	上位 (169)	中の上位 (297)	中の下位 (284)	下位 (173)	上位 (93)	中の上位 (359)	中の下位 (312)	下位 (117)
努力	97.1 (43.8)	98.6 (53.5)	96.8 (42.6)	94.8 (48.6)	99.0 (52.7)	98.1 (49.3)	96.8 (45.5)	89.7 (44.4)
運	73.4 (5.9)	61.9 (2.4)	62.3 (2.8)	56.6 (4.6)	69.9 (3.2)	66.8 (2.5)	65.4 (3.2)	51.3 (6.8)
上手な勉強法	96.4 (18.3)	97.3 (16.5)	96.5 (17.6)	89.6 (9.8)	96.8 (20.4)	97.5 (17.8)	94.9 (16.0)	84.6 (9.4)
自分に合った問題集・参考書	77.5 (0.0)	80.5 (1.0)	86.2 (0.7)	79.2 (1.2)	78.5 (0.0)	81.6 (0.6)	86.9 (1.3)	69.3 (0.9)
授業をしっかり聞く	97.1 (18.3)	99.6 (16.2)	97.5 (19.0)	96.5 (13.9)	98.9 (16.1)	98.1 (17.8)	98.7 (17.0)	90.6 (15.4)
生まれつきの能力	48.0 (3.6)	47.5 (2.0)	45.8 (2.8)	46.2 (2.9)	53.8 (3.2)	45.6 (1.4)	49.0 (3.5)	40.1 (3.4)
人に負けたくないという気持ち	81.6 (3.6)	86.5 (3.4)	81.4 (6.3)	79.8 (4.6)	86.0 (2.2)	84.4 (3.6)	82.7 (6.1)	76.1 (3.4)
家族の協力	52.7 (0.6)	49.8 (0.0)	48.9 (0.4)	51.4 (1.7)	48.4 (0.0)	54.9 (0.6)	49.3 (0.3)	52.1 (2.6)
よい学習塾や予備校に行く	41.4 (0.0)	38.1 (0.3)	38.1 (0.4)	48.5 (1.7)	30.1 (0.0)	34.8 (0.6)	48.0 (1.0)	39.4 (0.0)
教え方の上手な先生	81.6 (5.9)	82.4 (4.0)	75.8 (4.6)	73.4 (4.6)	80.7 (2.2)	81.4 (5.0)	77.9 (3.8)	69.2 (4.3)

注1) 各セル内の上段の数値は、「とても大切」と「まあ大切」の合計。

注2) 各セル内の下段の()内の数値は、単一回答の割合。

注3) 下線は10%以上差があるもの(最大値と最小値)。

注4) ()内はサンプル数。

2 . 学習していて感じることと学力

いずれの項目についても、学力上位層で該当する割合が大きい。学ぶことを通して、驚きや感動などを増幅させている。数学にかかわる項目を除くと、ほとんどの項目で国語の学力階層のほうが強く関連している点が注目される。



あなたは勉強していて、次のように感じることはありますか。

学習していて感じることは、学力階層とどのようにかかわっているのだろうか。次に、この点に検討を加える（表3 - 2 - 4）。

ほとんどの項目で、学力上位層での該当率が高くなっている。数学・国語のいずれについても比較的一貫した関連がみられるのは、「生き物や自然を『すばらしい』とか『ふしぎだな』と感じる」「社会のしくみや歴史のできごとを『すばらしい』とか『ふしぎだな』

と感じる」「数学の問題の解き方を考えたり工夫したりするのが好きだ」「英語を使って外国の人と話したり、手紙を書いたりしてみたい」である。学ぶことを通して感動したり知的好奇心をふくらませるには、（必須条件ではないが）一定の学力が前提となる場合があるのかもしれない。なお、国語と数学の一方でのみ関連を示す項目もある。

表3 - 2 - 4 学習していて感じること（学力階層別）

（％）

	数 学				国 語			
	上位 (169)	中の上位 (297)	中の下位 (284)	下位 (173)	上位 (93)	中の上位 (359)	中の下位 (312)	下位 (117)
生き物や自然を「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	<u>72.8</u>	64.6	64.8	<u>60.7</u>	<u>76.3</u>	65.4	62.1	<u>59.8</u>
社会のしくみや歴史のできごとを「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	<u>55.0</u>	54.9	53.5	<u>40.4</u>	<u>60.2</u>	56.6	46.5	<u>39.3</u>
数学の考え方や解き方を「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	<u>60.3</u>	46.2	42.9	<u>33.0</u>	<u>58.1</u>	45.7	<u>36.6</u>	42.7
国語の教科書を読んでいて、登場人物や書いてある内容に興味がわいてくる	56.8	<u>60.9</u>	54.9	<u>42.2</u>	<u>72.1</u>	63.0	50.3	<u>31.6</u>
生き物や自然のことを調べたり考えたりするのが好きだ	49.7	48.1	44.3	50.3	<u>53.8</u>	49.5	46.5	<u>43.5</u>
社会のしくみや歴史のできごとを調べたり考えたりするのが好きだ	38.5	<u>41.1</u>	35.2	<u>30.0</u>	<u>52.7</u>	41.8	32.4	<u>23.9</u>
数学の問題の解き方を考えたり工夫したりするのが好きだ	<u>55.0</u>	34.7	28.9	<u>19.1</u>	<u>39.8</u>	37.0	28.5	<u>23.0</u>
自分や相手の気持ち・考えをうまく出し合えたらいいと思う	65.7	<u>69.0</u>	61.6	<u>56.0</u>	<u>67.8</u>	64.1	63.5	<u>49.6</u>
英語を使って外国の人と話したり、手紙を書いたりしてみたい	<u>51.5</u>	50.5	44.7	<u>40.4</u>	<u>55.9</u>	46.7	47.1	<u>35.9</u>

注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。

注2) 下線は10%以上差があるもの（最大値と最小値）。

注3) () 内はサンプル数。

3．学習上の悩みと学力

学習をめぐる悩みは、学力が低いほど多くなり、多岐にわたってくる。数少ない例外として、学ぶことの意味・有用性にかかわる疑問があり、これは学力階層を問わず広がっている。また、「小学校までにもっと勉強しておけばよかった」という後悔の念は学力下位層ほど強い。学力下位層にある中学生も勉強することから完全に降りているわけではないようである。



あなたは勉強について、次のように思うことがありますか。

学習上の悩みをここでは、15項目について尋ねた。概して、学力階層との間にきわめて強い関連がみられた（図3 - 2 - 3）。

少なくともここであげた悩みに関しては、学力が低くなるほど悩みを抱く割合が多くなる。学力下位層で多くみられた項目を該当率の順に掲げてみる（左：数学、右：国語）。

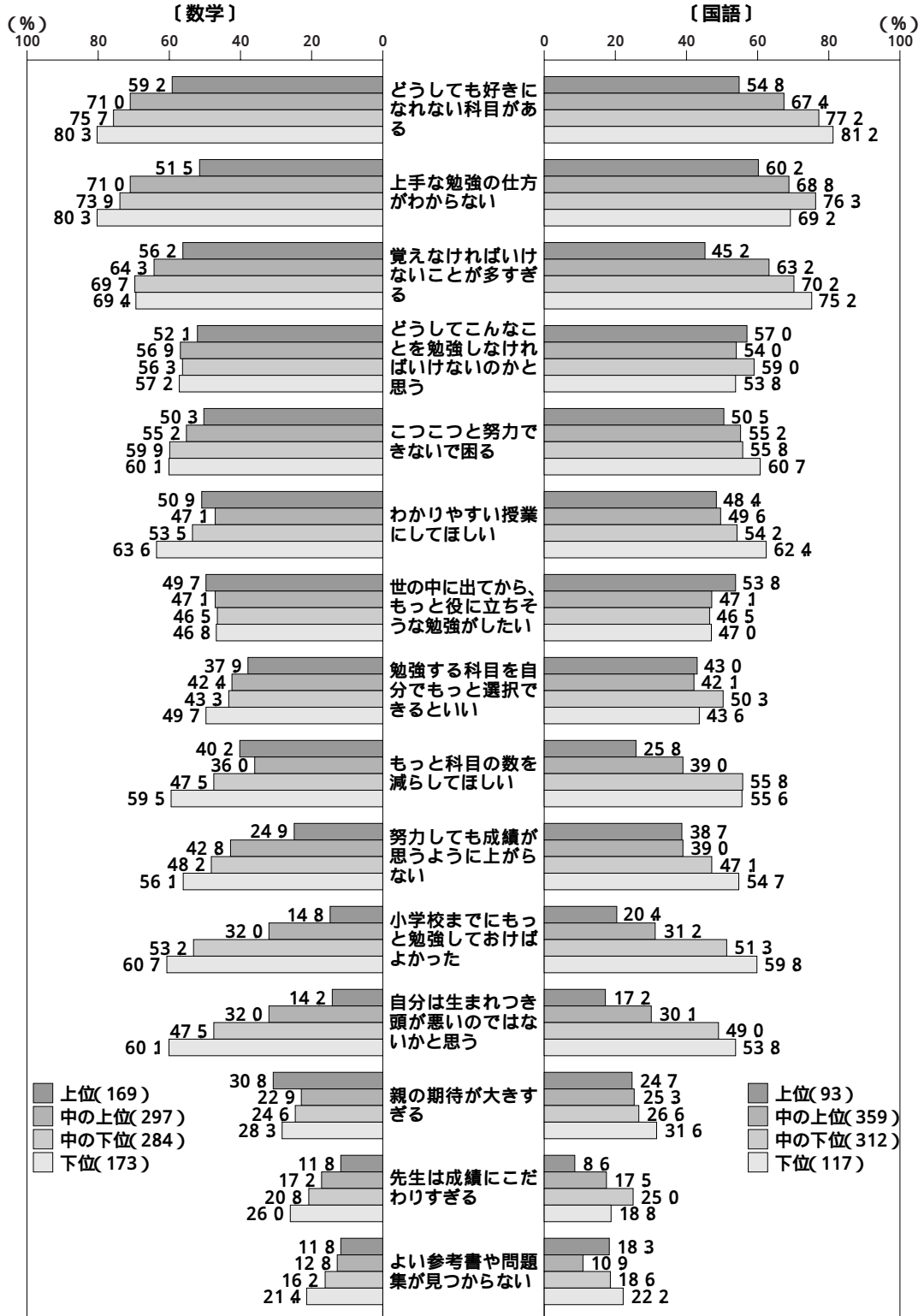
- ①「どうしても好きになれない科目がある」
（80.3%、81.2%）
- ②「上手な勉強の仕方がわからない」
（80.3%、69.2%）
- ③「覚えなければいけないことが多すぎる」
（69.4%、75.2%）
- ④「こつこつと努力できないで困る」
（60.1%、60.7%）
- ⑤「小学校までにもっと勉強しておけばよかった」（60.7%、59.8%）

これらの悩みは、学力の低い中学生にとって深刻である。現在の勉強そのものへの不満もさることながら、自分の現状への不満がないまぜになった悩みである。

こうした悩みに比べて、「どうしてこんなことを勉強しなければいけないのかと思う」とか「世の中に出てから、もっと役に立ちそうな勉強がしたい」といった悩みは学力階層にかかわらず半数前後の中学生が共通に抱いている悩みである。学力が高まっても解決し得ないだけに、これらの悩みは厄介で根本的な悩みなのではないだろうか。

さらに、「親の期待が大きすぎる」もまた学力階層による違いが小さい。しかし、悩みとしてあげる中学生の割合は4分の1程度にとどまっており、中学生への親からのプレッシャーは必ずしも強いとは言えない。

図3-2-3 学習上の悩み（学力階層別）



4 . 進路・進学意識と学力

① 高校への進学と学力

高校進学希望率は、学力下位層を除けば95%前後である。「推薦入試」志向は、学力中位2層で比較的強い。学力上位層ほど、「進学状況のよい高校」や「体験学習などのカリキュラム改革実践校」を好む。学力下位層は、「さほど努力を要さずに入学でき、校則も緩やかな高校」に魅力を感じている。

Q

あなたは中学卒業後、高校（高等専門学校を含む）に進学したいと思っていますか。

[思っている人にうかがいます]

- ・ どの学科に進学したいですか。
- ・ どのような高校に進学したいですか。
- ・ 高校へ進学する方法には、大きく分けて「推薦入試」と「一般入試」の2つの方法があります。あなたは、どちらの方法で進学したいですか。

高校への進学希望状況は、学力階層と強く関連している（表3 - 2 - 5）。

高校進学希望率（高校に進学したいと思うかという質問に「思っている」と回答する割合）は、学力下位層では8割前後であるが、他は95%前後に達している。「推薦入試」志向は、学力階層の中位2層で比較的強くなっている。「普通科」志向の強さは各層に共通

している。学力上位層ほど、「進学状況のよい高校」を好むが、それ以上に注目されるのは「体験学習などのカリキュラム改革実践校」へのニーズが比較的高い点である。逆に、学力下位層は、「さほど努力を要さずに入学でき、校則も緩やかな高校」に魅力を感じている。

表3 - 2 - 5 高校への進学希望（学力階層別）

(%)

		数 学				国 語			
		上位 (169)	中の上位 (297)	中の下位 (284)	下位 (173)	上位 (93)	中の上位 (359)	中の下位 (312)	下位 (117)
進高校 学への 希望の	思っている	97.0	97.6	94.0	85.0	98.9	96.7	95.5	79.5
	思っていない	1.2	2.0	4.2	11.6	1.1	1.9	3.5	16.2

以下の項目は、「思っている」と回答した生徒のみ回答。

		上位 (164)	中の上位 (290)	中の下位 (267)	下位 (147)	上位 (92)	中の上位 (347)	中の下位 (298)	下位 (93)
希望する 学科	普通科	75.6	73.8	67.0	68.7	83.7	72.3	65.1	74.2
	専門学科（商業科や工業科など）	17.7	21.7	26.6	24.5	13.0	22.5	28.5	20.4
	総合学科	1.8	2.4	3.4	1.4	2.2	2.9	2.0	1.1
	その他の学科	3.0	1.7	2.6	3.4	1.1	1.2	3.0	2.2
希望する 高校の タイプ	自分の好きな教科・科目を自由に選択できる高校	53.7	58.3	56.2	63.9	60.9	55.0	58.7	62.4
	職業資格を取るのに有利な高校	44.5	50.7	52.8	46.3	45.7	49.3	53.0	36.6
	進学状況のよい高校	44.5	33.1	32.2	24.5	47.8	31.1	31.9	26.9
	校則がきびしくない高校	44.5	47.6	50.2	54.4	48.9	46.7	52.3	52.7
	みんなで楽しめる学校行事が豊富な高校	60.4	62.4	59.2	64.6	63.0	59.1	62.1	66.7
	それほど努力しなくても入学できる高校	9.1	17.6	29.2	35.4	8.7	17.9	30.2	35.5
	体験的な学習などのカリキュラムに特色のある高校	23.2	21.0	13.1	12.9	28.3	21.0	13.1	10.8
	部活動のさかんな高校	39.6	37.6	42.7	42.9	39.1	39.2	40.9	52.7
	その他	10.4	3.4	2.6	4.8	9.8	3.5	5.0	2.2
入試 方法 希望する	できれば推薦入試で	53.0	58.6	56.6	50.3	50.0	56.8	60.1	50.5
	できれば一般入試で	44.5	40.7	41.6	47.6	48.9	42.7	38.9	45.2

注1)「希望する学科」「希望する高校のタイプ」「希望する入試方法」は、「高校への進学希望」に「思っている」と回答した生徒を母数としている。

注2)「希望する高校のタイプ」は複数回答。

注3)「希望する入試方法」は、希望に近いほうを選択。

注4)()内はサンプル数。

②希望する進学段階と学力

希望する進学段階と学力階層にはきわめて強い関連がある。学力上位層ほど「四年制大学まで」「大学院まで」を希望する者が多く、逆に「高校まで」は下位層ほど多い。とはいえ、数学の学力上位層の13.4%、国語の上位層の10.9%は「高校まで」という希望を持っており、この数値は「専門学校・各種学校まで」を加えると4分の1程度に達する。

Q

あなたは中学卒業後、高校（高等専門学校を含む）に進学したいと思っていますか。

[思っている人にうかがいます]

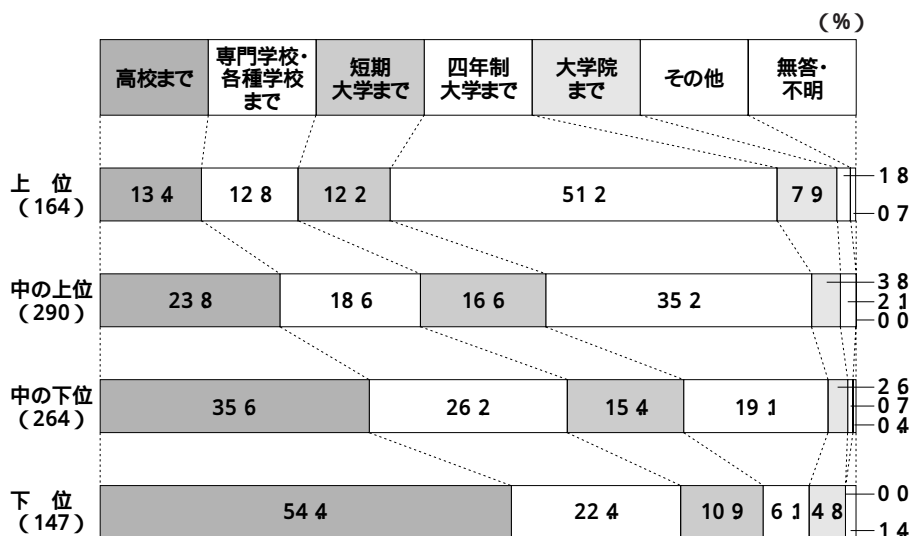
・あなたは将来、どの学校まで進みたいですか。

最後に、中学生が希望する最終学校段階と学力階層の関係をみていく（図3-2-4①②）。

学力上位層にもっとも多いのは、「四年制大学まで」で、数学・国語いずれについても5割前後に上っている。「大学院まで」を希望する者も7.9~9.8%を数える。学力下位層で「四年制大学まで」を希望する中学生は、

6%台にとどまっており、5割強が「高校まで」と回答している。学力階層によって、中学生の将来の進路希望がかなりの程度水路づけられていることが読み取れる。なお、学力上位層であっても「高校まで」と「専門学校・各種学校まで」を合わせると全体の4分の1程度に達している点も注目される。

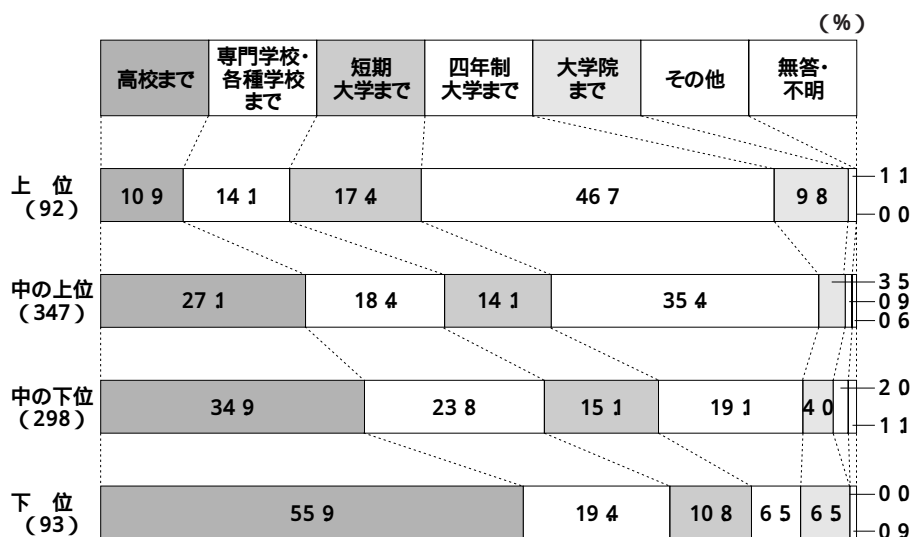
図3 - 2 - 4 希望する進学段階（数学の学力階層別）



注1)「高校への進学希望」に「思っている」と回答した生徒を母数としている。

注2)()内はサンプル数。

図3 - 2 - 4 希望する進学段階（国語の学力階層別）



注1)「高校への進学希望」に「思っている」と回答した生徒を母数としている。

注2)()内はサンプル数。